

「無力感」 2006年06月06日

現場に出て2ヶ月、自分が何をしたいのか、逆にわからなくなってきました。
いい教育がしたい、ただそれだけのことなのに、そのために何をどうしていけばいいのか見えません。
こんなに先の見えない状況は久しぶりです。
こんなに酒がまずい状況は久しぶりです。

ワタミの社長が、テレビで「自分には『悩み』はない、なぜならば、悩みというのは決断できなくて考えている状況だが、自分の仕事は、状況を見て最善の決断をしていくことだから」というようなことをいっていました。
そして、「悩んでいることは無駄だ。自分を悩ませているものの実体を客観的に分析し、それがわかったら、最善と思える選択をしてその原因をなくすために行動していくしかない」とも。

その通りだと思います。
僕もそういう生き方を目指してきました。
でも、今回ばかりは、なぜ自分がこんなに無気力になるのか、その理由すらわかりません。
原因がわからないのです。
こんな状況は記憶にありません。(忘れていただけかもしれませんが・・・)

中学2年の時に教員を志してから12年。
自分なりに持ち続けてきた理想、それもだんだん現実の生活の中で色あせてきているのではなかろうか、そう思います。
久々に弱音を吐いている自分がいます。

いい教育がしたい、ただそれだけのことが、果てしなく難しい。
明日、いい授業をしたい、ただそれだけのことが、とても難しい。
そんなことしか考えられない帰り道です。

「不覚」 2006年11月01日

それは、5時間目6時間目と2時間連続のクラスの授業でのことでした。

5時間目は無難にこなし、休み時間も何ともなかったのです。

ところが、6時間目が始まって板書を始めたあたりから、少しふらついてきて、それが徐々に程度を増して、吐き気をもよおすほどになってきました。

途中問題演習の時間をとったのですが、その解説中に、ついに立つことがままならなくなり、

そのまま残り15分ほどは自習にして突っ伏してしまいました。

そんな僕をいいことに、立ち歩いて私語をする優しい生徒たち。勘弁して下さいえ・・・。

授業後、すぐに保健室に行き、1時間ほど休ませてもらい、多少体調は落ち着きを取りもどしました。

あるとき突然立てなくなるほどにめまい・吐き気が来るとするのは、人生初の経験でした。

やるべき仕事だけやって、医者に行きました。

医者は、「疲れが原因でしょう」と、それだけですませようとするので、

「栄養関係などは考えられないでしょうか」と食い下がりました。

自己分析で、きっと栄養だろうなあとか思っていたのです。

「普段はどういう食生活ですか？」

「えーと、米と肉ですね」

「・・・」

そう、僕はここ最近、米と肉、そしてラーメンという、「体調崩すぜ」メニューばかり食べていたのです。

医者は、「それもあるかもしれませんが、疲労も大きいと思います」との診断でした。

自律神経系がうまく働いていないということも言っていました。

貧血ではないそうです。5月の健康診断で異常がなかったことと、目の血管を見て判断していました。

確かに、ここ2週間くらい、全力で仕事をしてきました。

そして、仕事にやりがいを見出してきたので、あまり疲労を感じることもありませんでした。

そんな中、昨日はせつかくの休みをディズニーランドに使ったわけです。

自分の身体を過信しすぎたのかもしれませんが。

そんなわけで、医者から帰ってきてからは、ゆっくりと休ませてもらいました。

久々に、ビデオでも見てゆっくりしようと思い、つい前日の「ちびまる子ちゃんドラマスペシャル」を見ました。

ノスタルジックな、いい作品でした。作品中、一つ心にひっかかった場面がありました。

ドラマの中で子供達がそれぞれの宝物を持ち寄るシーンです。

まるこはお母さんに宝物は何と聞くと「まることお姉ちゃんかな」を答えますが、「そうじゃなくてモノだよ」と聞きなおします。

お母さんの宝物は、お父さんからもらった指輪でしたが、僕は自分自身を考えてみました。

自分にとって、モノとしての宝物って何だろう

ボンヤリと考えたとき、心に浮かんだのは、やはり大学時代のサークルの思い出でした。

急に、昔の自分に会いたくなって、当時のサークルの資料を押入れの中から探してみました。

色々なものが出てきました。

その中には、自分の書いた文章が多数見つかりました。

部員向けに作った資料、すさんだ心をかきなぐったメール、想いをこめた文章、そして裏ユダ。

昔の自分が、その中には住んでいました。

自分の文章だけでなく、人からもらった文章も見つかりました。

意見を戦わせた文章。

バカな文章。

そして、辛いとき、励ましてくれた文章。

当時の思いが、一瞬にして蘇ってきました。

そして、思いました。

これらが全部、自分にとっての宝物なのだ。

これらは、モノではあるけれど、それ以上に「想い」が詰まっています。

今までの人生で得てきた「想い」、それが詰まったモノは僕の宝です。

そして、今。

僕は教員という職業にあります。

生徒との関わり合いの中で、また新しい宝物を増やしていければいいと思いました。

そしてまた、僕という人間との関わりを、生徒が宝物とってくれるような、そんな教員を目指していきます。

「喜び」 2006年12月09日

このところ、風邪で体調を崩していました。
腹痛と吐き気もあったので、ノロウィルスの可能性も？
そんな日常で、とてもうれしいことがありました。

2学期に入ってから、いつもいつも
「どうやったら授業をよいものにできるか」
そのことばかりを考えていました。
ある時期には体調を崩してしまいましたが、
疲れを感じないほど仕事に没頭し、
本当にストイックに目の前の問題と向き合っていました。
そうしてつくってきた授業は、少しずつ生徒にも届き始めていました。
生徒の感想・意見を読むと、それを感じることができました。
でも、「もっともっといい授業を」と
僕はさらに自分を追い込んで、
本当にずっと授業のことばかり考えて生活していました。
いや、今この瞬間も試験明けの授業で何をしようと、
そのことばかり考えています。
そんな中、一昨日の出来事です。

試験前日の最後の授業、5、6時間目の2時間続きなのですが、試験範囲も終わっていて、
完全に「浮いた」授業でした。

生徒は試験前なので、自習を望んでいるはずですが、僕はこんなときにしかできないだろう、実験的な授業をしてみました。

それは、NHKスペシャル「人体特許」のビデオを見せ、レポートをまとめる、というものでした。

習った知識で、テレビ・新聞・インターネットを読み解いてほしいと思っているので、あえて少し程度の高いものにしてみました。

レポートには、メモ欄に加えて、

- 1、内容の要約（内容を理解する力）
 - 2、ビデオを見て疑問に思ったこと（見えない情報に目を向ける力）
 - 3、疑問解消のための手立て（見えない情報を自分の手で調べる力）
- の3つを課題として挙げました。

どこまでできるか、試しにやってみただけです。

5時間目ですし、暖かい部屋で暗い中でビデオを見たら眠りに落ちるのが人間ってものです。

ましてや、試験直前。

あまり集中してできないだろうなあとは思っていました。

6時間目の途中までビデオを見て、その後レポートを提出した人から自習してよいと指示を出しました。

ところが、こちらの意に反して(?)、多くの生徒は与えたプリントをぎっしり埋めて、書くことをやめません。

「終わったら自習でいいんだから、どんどんやっちゃおう」

とあえて言っても、ずっと書いています。

そうして、とうとうチャイムが鳴ると、「まだ終わってないー」という声すら聞かれました。

正直、驚きました。

内容的に、まだまだ稚拙であるのは仕方ありませんが、とにかく「自分で考えて書く」という意欲は感じられます。

B4の紙に小さい文字でびっしり埋まったレポートを見れば、それはすぐにわかります。

もちろん、事前に「平常点に入れます」と言ったので書いたというのはあると思います。

でも、ここまでやるとは思っていませんでした。

一番うれしかったのは、授業を全然聞こうともしなかったある生徒が、かなりしっかりとしたレポートを書いて提出してくれたことです。

真面目に取り組んでくれたのだと思いました。

そして、僕の意図する「自分の目で見て、自分の頭で考える」という目標の達成がかなり現実味を帯びてきていることを感じました。

その紙を見て、本当に涙が出るくらいうれしかったのです。

ずっとストイックに、「まだまだ」と思い、自分に休む暇も与えてあげませんでした。今回は素直にうれしかったのです。

ただ、うれしかったのです。

僕の伝えたいことを、この生徒たちはわかろうとしてくれているのだ、そう思いました。

難しい題材に自分なりに向き合い、自分なりの考えを持っていました。

僕は、それがたとえ点をかせぐためだけのポーズだったとしても、それでもなおうれしいのです。

やっぱり、そこを超えた何かを感じることができたから。

1学期には、こんな喜びに出会えることを想像もできませんでした。

でも、今、こんなにも喜びを感じることができている。

教師をやめようと思っただけでもありました。

今だって、ずっと続けていくかまだ決めかねている部分はあります。

でも、僕は結局教師しかできないんじゃないかとも思うようになりました。

教師として、自分にしかできない教育があるんじゃないか、そう思うようになりました。

その答えは、あと3年かけて、この高校で探したいと思っています。

でも、12月6日水曜日は、教師の原点ともいべき「喜び」を強烈に思った日として、いつかまたこの日記を読み返した自分に思い出してもらいたいと思っています。

そして、これからもこんな喜びをいくらでも味わっていきたくて、そう強く思いました。

試験が終わったら生徒にも伝えます。

ありがとう、と。

「夢」 2007年01月11日

3学期の初授業、昨日と今日で、担当4クラスすべて一回は授業がありました。
新年最初ということで、「授業」というものにとらわれず、勝手に話をしてきました。
去年の私学でも、自分の「夢」について話したのですが、今年も、「夢」にまつわる話をしました。

ワタミの渡辺美樹社長が、テレビに出て話していた言葉で、印象深いものがあつたので、その言葉を引用してみました。

「夢に日付をつけよう」

なんとなく、漠然と持っている夢ではかなわない。
かなりはっきりと、2008年4月に自分は〇〇になる、〇〇を成し遂げる、という風に夢に日付をつけることが重要である。
なぜならば、日付がつけば、今日という日からその目標日までの残りがわかり、たとえば500日あるとすれば、今日の自分より明日の自分は500分の1だけ目標とする自分に近づいていなければならない。
そうして、具体的にイメージすることで、今日の自分が何をすればよいのかわかるし、着実に夢に近づくことができる。

そういった趣旨の言葉です。

僕は、この言葉には共感しました。

だから、生徒にも、今もっている生徒が2年生なので、6月、7月にある部活動の最後の大会までを考えて、今日一日何をすればよいのかを考えたり、一年後の受験を想像して、今日の自分は何をするべきかを考えたり、もっと大きな夢について考えるときにも、日付をつけて向かっていくという発想は重要だと思うと話してみました。

自分自身の経験も話しました。

自分が高校2年、17歳のころは、「22歳の4月に数学教師になる」という夢の日付を持っていました。

現実には、「25歳で生物の教師になった」わけです。

そして、この先。

生徒にいったのだから、まず自分がどう考えているのかくらいは話す必要があると思い、僕の現時点での夢の日付の話をしました。

たった一つ、はっきりと意識している日付、それは、「30歳の4月、青年海外協力隊に参加する」というものです。

国際協力をしたい、その思いをずっとずっと持ち続けています。

ある時期から、ずっと青年海外協力隊に参加することをイメージしていました。

都立の教員になれた今、それは確実に現実のものになりつつあります。

都立では、5年間勤務すると、教員という身分を残したまま協力隊に参加することができる制度があります。

公務員の社会貢献という発想からだと思います。

ですから、僕は最短で30歳の4月から協力隊に参加できるわけです。

この日付に向けて、今何をなすべきかを考えています。

とりあえず、目の前の生徒への教育を充実させ、語学もものにしないといけいないので、英語くらいは勉強しておこう、そう思っています。

生徒にこういう話をするのは、自分自身をモデルとしてひとつの生き方を提示するということとともに、自分に自分でプレッシャーをかけていることでもあります。

生徒の前で大口たたいたんだから、弱音は吐けないし、この夢はあきらめられない。

そういう風に、ある種自分を追い込むことにもなります。

そうでもしないと、本当に本格的には動けないとも思うからです。

とにもかくにも、5年後の自分がこの日記を見返したときに、「俺は、5年前にこんなこと言ってたのに、今は・・・はぁ」なんて言わせないために、5年後の自分を充実させるために、今は目の前のことを頑張りたいと思います。

そんな今年の初授業でした。